

# ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2022年9月分)

2022年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

## 目次(以下は主なトピックを抜粋)

### 1. 国内情勢

#### (1) 国家レベル

●ドディック大統領評議会メンバーによるドイツ大使へのアグレマン付与拒否(2日)

●OHR前での抗議集会の実施(8日)

●EU加盟に関する世論調査(28日)

#### (2) エンティティ、特別区

##### ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●ノバリッチBH連邦首相と世銀代表団の会談(15日)

##### イ スルプスカ共和国

●Srna通信のバルカン通信社連盟除名(19日)

●BH憲法裁判所による、RS資産登記関連法の無効判断(22日)

### 2. 外政

#### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ジャフェロビッチ大統領評議会議長の国連総会出席(21日)

#### (2) 二国間関係

●ドディック大統領評議会メンバーの訪露(20日)

●ウクライナ被占領地域における住民投票へのRS監視団派遣(27日)

#### (3) 日・BH関係

●日本関係者レセプションの開催(6日)

●伊藤大使とベリヤン駐日 BH 大使及び和歌山大学との懇談(11日)

●伊藤大使のスポーツアカデミー「マリ・モスト」視察(25日)

### 3. 経済

#### (1) 経済指標

#### (2) 経済政策・公共事業

#### (3) 経済協力

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

## 1. 国内情勢

### (1) 国家レベル

#### ●ドディック大統領評議会メンバーによるドイツ大使へのアグレマン付与拒否(2日・14日)

2日、BH大統領評議会臨時会合において、ドディック大統領評議会セルビア系メンバーは、8月24日の定例会合に引き続きドイツ大使へのアグレマン付与に対し反対票を投じた。2回目の審議は多数決による採択(賛成2、反対1)となり、ドディックメンバーは民族の死活的利益(VNI)を主張した。

これを受け、14日にはドディックメンバーによるVNIがRS国民議会において審議された。野党は会合をボイコットし、ドディックメンバーの提案はVNIの採択に必要な議会定数の3分の2以上の賛成を得られず否決となり、これをもってドイツ大使へのアグレマンが付与されることが決定した。

#### ●OHR前での抗議集会の実施(8日)

8日、シュミット上級代表のボン・パワー行使によるBH選挙法改正の可能性に反対する市民がOHR前で抗議集会を開催した。

抗議を呼びかけたゾルニッチ氏(注:所属民族を明らかにしないことで、BH上院議員及びBH大統領評議会メンバーとして選出されることが不可能なBHの制度が人権侵害にあたるとして、欧州人権裁判所に訴えた人物)は、シュミット上級代表がチョービッチHDZ党首やブレコビッチ・クロアチア首相の望む形でBH選挙法を改正することを許すわけにはいかないと、民族、宗教等の個人の事柄ではなく、BH国民の誰であっても1人が1票を有する制度を望むと述べた。

#### ●EU加盟に関する世論調査(28日)

28日、BH欧州統合事務局による、BHのEU加盟についての世論調査の結果が発表さ

れた(8月実施、対象1200名)。

EU加盟に関する国民投票が実施された場合、賛成票を投じるとした回答者は全体の77.4%(エンティティ、行政区ごとの割合: BH連邦90.1% スルブスカ共和国54.5% ブルチュコ特別区73.8%)。

EU加盟を支持する理由のうち、最多は持続的な平和と安定の保証(33.4%)。不支持理由の最多は生活費及び税の引き上げに対する懸念(50.4%)。

### (2) エンティティ、特別区

#### ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

##### ●ノバリッチBH連邦首相と世銀代表団の会談(15日)

15日、ノバリッチBH連邦首相はBHを訪問中の世銀代表団と会談し、インフレ対策、コロナウイルス及びウクライナ情勢による経済への影響の緩和等につき意見を交わした。ノバリッチ首相は失業者への給付金等の施策等を取り上げ、連邦政府の経済政策につき説明を行った。また、会談では、国際金融機関によるBHの改革への支援の重要性が強調された。

#### イ スルブスカ共和国

##### ●Srna通信のバルカン通信社連盟除名(19日)

19日、バルカン通信社連盟(ABNA-SE)は、RSに拠点を置くSrna通信社から正会員資格を剥奪し、代わってBH連邦のFENA通信を正会員とする旨決定した。これ以降、Srna通信はオブザーバーとしての資格のみを有し、連盟内での投票権を失うこととなる。

この決定に対しRS政府は、RSに反対する政治的ロビー活動の影響によるものとして非難した。

### ●BH憲法裁判所による、RS資産登記関連法の無効判断(22日)

22日、BH憲法裁判所は、RS資産登記関連法に関し、資産の登記変更等に係る権限は国家に帰属するものであり、RSには憲法上の管轄権がないため、同法は無効であるとの判断を下した。

本年2月にRS国民議会で可決されたRS資産登記関連法は、国有資産をRS資産として一方的な登記変更を行うことを可能とするものであり、本年4月13日にシュミット上級代表のボン・パワー行使によって一時的に発効が停止されており、BH憲法裁判所による判断を待つ状態となっていた。

ドディックメンバー及びRS政府は、引き続きRSの資産を保護するための取り組みを続け、新法の制定を進めていくと述べた。

## 2. 外政

### (1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

#### ●大統領評議会3メンバーのブルドー・ブリュニプロセス首脳会合出席(12日)

12日、大統領評議会3メンバーはスロベニアで開催されたブルドー・ブリュニプロセス首脳会合に出席した。会合では西バルカン各国の首脳による地域情勢、EU加盟等について意見が交わされ、BHに関しては、特にEU加盟候補国の地位獲得に対する強い支持が各国より表明されたほか、西バルカンに対するEUの査証免除、エネルギー危機及び経済危機に対する支援の要請等が行われた。

#### ●ジャフェロビッチ大統領評議会議長の国連総会出席(21日)

21日、ジャフェロビッチ大統領評議会議長はニューヨークにおいて第77回国連総会に出

席した。会合での演説において、同議長はウクライナの主権及び領土一体性の尊重、BHにおける Dayton 体制の維持と EUFOR アルテア ミッションをはじめとした国際社会の関与の重要性について強調した。

### (2) 二国間関係

#### ●エルドアン大統領のBH訪問(6日)

6日、エルドアン・トルコ大統領がBHを訪問し、大統領評議会3メンバーと会談を行い、二国間の経済関係強化を中心に意見を交わした。今般の訪問では両国政府間の情報保護協定への署名が行われたほか、両国の国民が両国国境をIDカードで通過することを可能とする協定署名に向けた手続が開始された。

エルドアン大統領は、10月2日のBH総選挙の透明性ある実施への支持を表明するとともに、BH選挙法改正については、BH国内政治家が実施すべきであり、上級代表が介入すべきではないと述べた。

#### ●ミラノビッチ大統領のBH訪問(13日)

13日、ミラノビッチ・クロアチア大統領はヤイツェ(BH中部)を訪問し、ボスニア紛争における同地のセルビア系支配からの解放27周年を記念した式典に出席した。同大統領はボスニア紛争終結に対してクロアチア系の果たした功績を協調するとともに、現在のBHにおける大統領評議会クロアチア系メンバーの選出が住民の意思と食い違っているとして批判した。

ヤイツェ訪問後、ミラノビッチ大統領はパニャ・ルカ郊外のラクタシにおいてドディックBH大統領評議会セルビア系メンバーの私邸を訪問した。

### ●ブチッチ大統領及びブルナビッチ首相のRS訪問(15日)

15日、ブチッチ・セルビア大統領及びブルナビッチ同首相はRS北西部のビエリナ(セルビア国境付近)を訪問し、セルビア民族統一記念日の式典に出席したほか、ブチッチ大統領はビエリナ～ラチャ間高速道路起工式に出席した。

ブチッチ大統領は、「オープン・バルカン」構想がバルカン地域でより広く受け入れられるよう望む旨述べたほか、コソボ等に言及しながら、セルビア民族が団結して領土を守ることの重要性について強調した。

### ●ドディック大統領評議会メンバーの訪露(20日～21日)

20日、ドディックメンバーはモスクワにおいてプーチン露大統領と会談し、BH総選挙、ロシア・RS関係等につき意見を交わした。

ドディックメンバーは、国連安保理等でのロシアによるRSへの支持、及び同国の Dayton 和平合意を尊重する一貫した姿勢に謝意を述べ、協力関係を維持していくとの姿勢を改めて示した。

また、21日、ドディックメンバーは、会談でプーチン大統領に対し国連安保理でロシアがEUFORアルテアミッションのマンデート延長を支持するよう要請し、同大統領よりマンデート延長に何らかの意図が隠れていない限りは同ミッションを問題視することはないとして賛同を得た旨明らかにした。

### ●ウクライナ被占領地域における住民投票へのRS監視団派遣(27日)

露報道によれば、ウクライナの被占領地域(ルハンスク、ドネツク、ヘルソン、ザポリヅジャ)におけるロシアへの併合の可否を問う住民投

票において、RSから監視団としてペリッチ氏(ドディックメンバーの元顧問)、ショヤ元駐仏・駐エジプトBH大使等が参加した。

これに対し、ジャフェロビッチBH大統領評議会議長及びトウルコビッチ外相は、BHとして住民投票の結果の正当性を認めないと述べ、さらにBHから住民投票へ公式に監視団を派遣した事実はないと否定した。

### (3)日・BH関係

#### ●日本関係者レセプションの開催(6日)

6日、サラエボ市内のホテルにて、日本大使館主催の日本関係者レセプション「Friends of Japan Cocktail」が開催された。日本留学経験者、日系企業関係者、武道関係者、日本語学習者等が集まり、親交を深めた。

伊藤駐BH日本国大使は、昨年の日・BH外交関係開設25周年に言及し、今後の両国の友好関係がますます深まるよう期待を述べた。



(写真:レセプションの様子)

●伊藤大使とベリャン駐日 BH 大使及び和歌山大学との懇談(11日)

伊藤駐BH日本国大使は、BHに一時帰国中のベリャン駐日BH大使及び伊東和歌山大学学長、恵下同大学副学長、中元同大学国際交流課長と懇談し、教育を通じた日本とBHの友好関係促進等につき意見交換を行った。伊藤大使は、本年締結された和歌山大学・東サラエボ大学の学術協定や和歌山県すさみ町とイエゼロ市の姉妹都市協定に言及し、日本語教育や両国間の文化交流を通じ、和歌山県とBHの関係がいつそう深まることを期待する旨述べた。



(写真:伊藤大使とベリャン大使、伊東学長他)

●伊藤大使のスポーツアカデミー「マリ・モスト」視察(25日)

伊藤駐BH日本国大使は、モスタル市内にある子供たちのためのスポーツアカデミー「マリ・モスト」(2014年設立。日本の草の根文化無償で改修されたスポーツセンター「カンタレバツツ」を拠点とし、サッカーを中心に、スポーツを通じた民族融和を目指し活動)を訪問し、同アカデミーの発起人の一人であるサッカー元日本代表主将の宮本恒靖氏と懇談し、同氏も参加して行われた子供たちのトレーニングを見学した。

伊藤大使は、宮本氏に対し、今後も民族間の壁を越える機会を積極的に創出し続けてほしいとの期待を述べた。



(写真:伊藤大使のアカデミー訪問の様子)

### 3. 経済

#### (1) 経済指標

##### ● 本年の対BH外国直接投資は減少見込み (24日)

BH中央銀行の統計によれば、2021年の外国直接投資は前年比+2.93億KM(2021年までの累計額は162.8億KM)。他方、本年の外国直接投資は低調で、上半期の総額は5.12億KM(前年同時期:8億KM)。世界的な不況、物価及び燃料費の上昇等の影響を受けたものとみられる。

#### (2) 経済政策・公共事業

##### ● 燃料となる木材の一時的禁輸措置の延長 (20日)

BH閣僚評議会は臨時の電話会合を実施し、特定の木製品及び木製ペレットの一時禁輸措置を延長する旨決定した。当初、本措置は9月24日まで有効であったところ、今般の決定により10月31日まで有効となる。

今般の禁輸措置は、世界的なエネルギー危機の中、産業用木材の確保、一般家庭、学校、病院等における燃料の不足を防止することを目的としている。

#### (3) 経済協力

##### ● 中国COSCO社の新規輸送事業(5日)

中国遠洋海運集団(COSCO Shipping)社は、BHにおいて新たなインターモーダル輸送サービス(一契約で、複数の輸送手段を組み合わせ、積み替えなしに物資を輸送する形態)「Land Sea Express」を開始する。本サービスは、リエカ港(クロアチア)への船舶による定期輸送及び、最終目的地のトゥズラへ向けた鉄道輸送によるもので、トゥズラはBHで初めて鉄道によるインターモーダル輸送の行われる

都市となる。本プロジェクトは、RS鉄道及びBH連邦鉄道による支援を受けている。

##### ● 世銀専務理事会年次会合の開催(15日～16日)

サラエボにおいて、世銀の欧州地域専務理事会年次会合が実施され、IMF・世銀代表団及び各国中央銀行総裁等がBHを訪問した。会合においては、欧州・世界経済情勢、とりわけ現在のインフレ及びエネルギー安全保障の問題点等につき意見交換が行われたほか、BH政府関係者と金融関係者の会談が実施された。

##### ● トルコ企業によるRSのエネルギー分野への投資(27日)

トルコHSVE社及びPolat社は、パニャ・ルカにおいてRS政府との間で、エネルギー・鉱業分野への投資に関する合意に署名した。本合意は特に再生可能エネルギーによる発電所の建設に関するものであり、この二社はRSへ数千万ユーロの投資を行う意向。